

産拠点として、国の輸出力強化という成長戦略に沿い、輸出のリーダーシップを取ってもらいたい。ＴＰＰに対抗するという側面を持ちながら頑張してほしい」と話している。

アンケートは、７、８月に郵送や面談方式で行った。管内融資先151法人・個人から回答があり、回収率は54.3％だった。

十勝川西15年産 長いも輸出10億円突破

2016年9月28日

管内８ＪＡで生産する「十勝川西長いも」の2015年産（昨年11月～今年10月）の輸出額が、28日の米国への出荷分で初めて10億円を突破した。今月末で10億1063万円に達する見込みで、国内向けを含む全体でも過去最高ペースの68億8000万円で初の70億台が視野に入る。相場が高値で安定し、米国向けの輸出量が伸びて全体をけん引した。



トレーラーに積み込まれる輸出用のナガイモ

米国けん引し初

川西長いもは、帯広かわにし、めむろ、中札内村、あしよろ、うらほろ、新得町、十勝清水町、十勝高島の８ＪＡで生産。1999年産から台湾、2007年産から米国に輸出している。これまでの販売額の最高は大豊作だった12年産の3090トン、9億2268万円だった。

15年産ナガイモの生産量は約２万トンで、うち15％程度が輸出向け。豊作の14年産より少なかったものの、相場が高値で安定したため国内、海外ともに販売額が伸びた。

９月末までの予定輸出量は米国向けが1377トン、５億697万円で、既に販売額は前年産を上回った。市場の大きな米国で貿易会社との連携で新たな販路開拓、ニーズに応じた等級の出荷が可能になり輸出量が伸びている。台湾向けは1088トン、４億2653万円。シンガポールなど

へは190トン、7713万円で、29日に16トンの出荷を計画している。

15年産の相場は国内産の平均が１キロ当たり約350円と前年より17％程度高く推移した。輸出が好調なことから国内向けの出荷量も安定し、需要が弱まる冬場も200円台に下がることがなかった。

国内と海外を合わせた販売額の合計は、過去最高だった前年の67億円を既に超えており、順調にいけば70億円に届く見通し。ＪＡ帯広かわにしは「年間を通して良い単価で販売できた。輸出は国内相場の安定が目的なので、うまく相乗効果が表れた」とする。

16年産の生産量は、夏の天候不順などで15年産には届かないとみられるが、同ＪＡは「現在の良い相場を維持して、15年産を上回る結果が出せるように、輸出を続けていきたい」（青果部）としている。

